



●新たなシルク産業創生へ向けた拠点

すでにご覧いただいた皆さんも多いかと思いますが、国道3号から見える広見小学校跡地に、巨大な建築物が出来上がりつつあります。1月11日には建物を覆っていた足場が撤去され、その外観が姿を現しました。

晴天の下にそびえる巨大な工場は、山鹿市と(株)あつまる山鹿シルクで進める新シルク^{さんぎょう}蚕業構想の第一歩にふさわしく、山鹿の自然の中でひときわその存在感を放っています。この世界最大規模で最新鋭の工場は、3月20日^{ようさん}の完成に向けて、これから内部の機械設備の導入などが進められます。

この養蚕^{ようさん}工場の特徴の一つに、桑葉を粉末にして人工飼料を調合する桑加工設備や、卵（蚕種）のふ化設備など、養蚕の全ての過程を行うことができる施設になっているという点があります。ある程度の大きさまで育った蚕から繭^{まゆ}までを育てる従来の養蚕と比べ、より高度な飼育環境（常温無菌）で、高効率な生産（年24回の集繭^{しゅうけん}）を実現し、日本のシルク産業復活に大きく貢献します。

また、30年以上前から進んでいない人工飼料の改良にも着手する予定です。日本最先端の研究機関や飼料メーカーとともに、常温無菌養蚕に適した廉価な飼料を開発することで、高品質で適正価格の繭を安定生産できる体制を整え、世界最高クラスのシルク開発によるジャパンプランド化を目指します。

※新シルク蚕業構想の情報は、次のWEB サイトでも発信していますのでご覧ください。

<http://www.silk-on-valley-yamaga.jp/>



1月11日の足場撤去の様子